


KWANSEI GAKUIN SCHOOL OF THEOLOGY

 関西学院大学

神学部報

No.127 2026.6

Wesley Theological Seminary 韓国理事会訪問

5月28日、Wesley Theological Seminary (米国ワシントンDC)のアジア担当理事の皆さまがメソジストの基盤を共有する関西学院大学神学部をご訪問くださいました。同校副総長、申京林先生が神学部チャペルでWhen No Answer Is in Sight (答えが見えない時に)と題して、厳しい状況のなかに希望を見出す力強いメッセージを語ってくださいました。また、昼食をともにしながら関西学院大学と神学部を紹介し、歴史、現状、課題などを共有し、有意義な交流の時をもつことができました。この豊かな出会いに感謝申し上げます。



Instagram



HGTHEOLOGICA

発行 関西学院大学神学部広報委員会
〒662-8501 西宮市上ヶ原一番町1-155
電話 (0798) 54-6200
https://www.kwansei.ac.jp/s_theology/

Facebook





2026年度 始業礼拝メッセージ 「疑うことと信じること」

神学部長 岩野 祐介

4月10日 於:関西学院会館 レセプションホール

本日の聖書箇所ヨハネ20:24-29は、復活節第二主日の聖書箇所になります。

自分で見て、触ってみなければ信じられない、というある意味で非常に当たり前なことをいうトマスに対して、29節でイエスは見ないのに信じるものは幸いである、という言葉をかけられます。では、自分で検討し、考え、確かめよう、という姿勢は信仰ということと相反するのでしょうか？

ここでいう、見たから信じるというのは、現代「証拠を示せ」「エビデンスを出せ」という類のことなのかもしれません。わたしたちは、何についても「エビデンス」を求めるわけではありません。信頼関係があれば、エビデンスはいらないのです。見ないで信じる、証拠がなくても信じられる、というのは、すでに信じられているから、すでに信頼関係があるからです。

イエスとトマスとの間にも、信頼関係があったのです。自分の傷口、傷跡を他人に見せ、触らせる、というの

は相手を信頼していなければできない、オープンな態度です。イエスはトマスに怒りを示すのでも、悲しむのでもないように見えます。彼の態度を受け入れているのです。この場面に先立って、十字架につけられて死んだはずのイエスが弟子たちの前に現れ、イエスが十字架につけられたとき逃げてしまっていた弟子たちを受け入れ、弟子たちが恐れ、申し訳なさ、罪悪感から解放されて、大きな喜びを感じたとき、トマスはそこにいなかったのです。トマスの気持ちになってみれば、どうして？と思うでしょう。信頼関係があったからこそ、なんですか、とトマスは文句を言うのです。

イエスは、そのトマスにも現れたのです。彼の不満を聞き、受け止め、傷口に触らせろという要望を受け入れたのです。イエスが彼のすべてを受け入れてくれたことで、イエスとの信頼関係を体感したトマスは「私の主、私の神よ」と呼びかけます。神様は、いつも、私たちの不満や戸惑いも含め

て私たちの言葉を聞き、受け入れ、向き合ってくださいなのです。

では、「見ないのに信じるものは幸いである」という言葉の意味は？これは今の私たちのことと関わります。トマスは人間として活動していたイエスとも、復活のイエスとも出会い、信頼関係がありましたが、私たちはどうでしょうか。わたしたちは、聞いて信じるものなのです。イエスを見ることもできた人たちから、聞いて信じる人たちへと信仰がつながり、聖書のなかで、キリスト教の歴史のなかで、あるいはいま現在周囲にいる先に神様との信頼関係を築いている人たちとの関係のなかで、私たちにまで信仰がつながってきています。そこにはきっと、この人の言うことならエビデンスがなくても信じられる、という関係があったでしょう。

見ないで信じられるような関係を、ぜひこの大学での学び、生活のなかで、皆さんがつくっていくことができるよう、お祈りします。



副学部長あいさつ

教務担当 加納 和寛

今年度から授業構成が大幅に変更となり、学生の自主的な学習がますます求められています。また生成AI利用の浸透により、授業方法・成績評価方法にも新しい観点が求められています。それだけでなく神学は広範かつ深遠で、ときに迷うことがあるかもしれません。「あなたがたのために立てた計画は、私がよく知っている——主の仰せ。それはあなたがたに将来と希望を与える平和の計画であって、災いの計画ではない」(エレ29:11)。世界は大きく動いていますが、神学部の教えと学びがさらに前進できるよう、お祈りを願います。



副学部長あいさつ

学生担当 東 よしみ

2026年度は学部31名、大学院4名の新生を迎えることができました。学生担当として、学生の皆さんが充実した学びの時間を過ごすことができるように、精一杯サポートしてまいります。社会が大きな変化の中にある現在、学生の皆さんがぶつかる課題も多様化しています。本学には、総合支援センター、キャリアセンター、ライティングセンターなど様々な支援体制が整っています。学生の皆さんにはこれらの支援を積極的に活用して欲しいと思います。学生たちの心身が守られるようにお祈りください。

始業講演「D・ボンヘッファーと〈分断の世界〉

— 映画『ボンヘッファー』から考える神学と実践 —

橋本 祐樹 准教授

4月10日 於:関西学院会館 レセプションホール



始業講演では「D・ボンヘッファーと〈分断の世界〉—映画『ボンヘッファー』から考える神学と実践—」と題してお話しました。昨年日本でも公開された映画『ボンヘッファー:ヒトラーを暗殺しようとした牧師』と、それをめぐる国際的議論を取り上げ、作品の評価以上に、分極化した社会の中でボンヘッファーの名や神学がどのように受容され、利用(誤用)され得るかという問題に焦点を当てました。とりわけ米国公開時には、選挙期の対立の中で映画の内容や宣伝が政治的意味合いを帯び、「ボンヘッファー」が排除や暴力の正当化のために誤用される局面が明らかになりました。研究者や親族、関係者による抗議声明の背景には、宗教的言語や神学が「武器化」されることへの強い懸念がありました。

この映画論争を手がかりに、分断とは、単なる意見の違いではなく、道徳的明快さ(善悪の単純化)への欲求と結びつきやす

いことを確認しました。「正しい側」にいる確信、すなわち自己義認が強まる時、異なる他者は「敵」となり、排斥や暴力の正当化へと傾きかねません。さらに問題は、時にそのような思考回路が宗教や神学の言葉によって補強されてしまう点にあります。

ボンヘッファーに聴きながら、分断した世界を生きる実践的作法を三点にまとめて提示しました。第一に、自己義認に固執せず、罪責を自覚しつつ神の赦しに依り頼むこと。第二に、善悪を単純化できない「薄明」の現実を引き受け、具体的な隣人の前で決断すること。第三に、誰が正しいか(正しくないか)ではなく「誰が苦しんでいるか」を問う視点を持つことです。

映画論争という現代的事例から出発し、ボンヘッファーの倫理的洞察と歩みを手がかりに、神学と実践の課題を皆さんと共に考える機会となりました。



新任あいさつ 大石 周平 助教



この4月から神学部助教として着任しました大石周平と申します。

「第58回神学セミナー」のため上ヶ原に初めて足を踏み入れたのは2年前のこと。「明日の地域と教会」の主題に応じ、東京の府中・国立に二礼拝所をもつ日本キリスト教会多摩地域教会の牧師として、拙い講演をしました(神学部報No.123やブックレット17に報告・記録があります)。あの頃には夢にも思わなかったで、人生初の関西生活が始まっていく(しかもこの素敵な歴史あるキャンパスを中心に)、その事実が一番驚いているのは私自身かもしれません。人智を超え

る神の導きを前に、感謝を覚えつつも襟を正す思いです。

私は福岡で生まれ育ちましたが、大学卒業後は、スイス留学の約5年を除けばずっと関東にいました。2014年にチューリヒから帰国して以後は、牧師として宣教会・教会建築・教会建設に従事するとともに、教派の神学校や日本聖書神学校といった牧師養成機関、明治学院・青山学院・聖心女子といった各大学で講師としても働きました。専門は旧約聖書学で、各概論のほかには、ヘブライ語、原典講読、イスラエル史などを担当してきました。教会から大学へ軸足は移っても、「御言葉はわが足の灯、わが道の光」(詩編119:105)であることに変わりはありません。学内外の皆様との対話と交流を楽しみにしています。これからよろしくお祈りします。

新入生オリエンテーション報告

副学部長(学生担当) 東 よしみ

今年度は31名の学部新入生を迎え、4月1日(水)から2日(木)にかけて新入生オリエンテーションを実施しました。1日に総合体育館で大学の入学式が執り行われ、その後、神学部チャペルにて宣誓式が行われました。続いて、学生担当副学部長による学生生活のオリエンテーションが行われ、補佐室のスタッフからは神学部図書室およびチャペルの利用についての説明がありました。さらに、学生より学生会の紹介が行われました。2日は、教務担当副学部長による履修指導の後、キャンパス自立支援室、学生相談室、保健館の案内およびパソコン

講習が行われました。その後、グループに分かれ、学生たちによるキャンパスツアーが実施されました。初日はあいにくの雨となりましたが、満開の桜が新入生たちを迎えてくれました。これから新入生たちがキャンパスで過ごす日々が、その後の人生の土台となるような充実した時となるように願っています。



日本基督教団四国教区派遣神学生 研修報告

<期間>3月10日(火)～3月18日(水) <場所>松山城東教会、日土教会、阿波池田教会

キリスト教伝道者コース4年(当時) 古澤 如雲



私はこの度、四国教区派遣プログラムに参加し、主に松山城東教会と阿波池田教会にてお話しする機会をいただき、また日土教会にて木曜午後の礼拝に出席しました。普段通っている教会とは雰囲気異なり、新鮮に感じました。特に、自立連帯献金や、週ごとに四国教区の教会や伝道所を覚えて祈る取り組みなどから、教区全体が一つ一つの教会・伝道所を支え合おうとする雰囲気を伺うことができました。

また、一つの教会だけでイベントを行うことが難しいため、教区をさらに細かく分けた分区でイベントを企画していました。支え合うという意識が強く、教会員の方々に活気があり、こうした支え合いが今後の教会に必要であると感じました。

保育園や幼稚園に関しては、現状では何とか運営できてい

るものの、少子化が進み園児が減少した場合にどうなるかわからないという課題があると聞きました。実際に訪れてみて、その地域の特性や現状は行ってみないとわからないということを実感しました。

さらに、日土教会を兼務されている牧師先生は、主任を務めている教会から車で30分ほどかけて日土教会に赴き、兼務をされており、その現状や大変さについて具体的に知ることができました。

牧師先生によると、若者が来たことで普段より活気があったとのことで、牧会に出た際だけでなく、今の自分に何ができるかを考える良い機会となりました。

四国教区派遣プログラムを通して、さまざまな学びを得ることができました。この経験を生かし、牧会者として献身の道を歩んでいきたいと思えます。



阿波池田教会

留 学 報 告

キリスト教伝道者コース4年 馬淵 ひかり



私が学びのために2025年秋に3カ月間留学したL'Abri Fellowship(以下L'Abri)という団体について報告します。

L'Abriは、スピリチュアリティに関わるような、なかなか答えの出ない問いを抱える人たちがそれと向き合うための場として、神学者によって1995年に設立されました。

この場所には最短数時間から最長で3か月間滞在できます。常時30名ほどが滞在し、学生たちの年齢は18歳から80代くらいの方までいました。国籍や宗教、職業、そしてそれぞれが抱える問いなども多種多様です。そのような違いを越え、互いの存在そのものを尊び喜び合うこのコミュニティはとても温かく、学生たちの表情は生活していく中で和らぎ、生き生きとしていっているように見えました。

社会を見渡すと、人をありのままの存在として無条件で受け入れ大切にするコミュニティは非常に数少ないように感じます。そのような社会で苦しんでいる人たちがいるという現実もあります。今回の経験を踏まえ、このような社会の中で私にできることを考えていきたいと思えます。

キリスト教思想・文化コース4年 園田 百望

私は関学の中期留学プログラムでの経験を機に、2024年4月1日からブリスベンで約1年間のワーキングホリデーに挑戦しました。現地では日本食レストランで働き、様々な国籍のスタッフやお客様と関わりました。その中で文化や考え方の違いに戸惑うこともありましたが、言葉や習慣が違って相手を知ろうとする姿勢が関係を築く第一歩になると学ぶことができました。また、滞在先のホストファミリーはクリスチャンで、信仰が自然に生活の中にあることが印象的でした。その後の欧州でのマルタ留学やバチカン市国への訪問では、語学学習だけでなく、神学部で学んできた知識が、街並みや芸術、人々の価値観に深く結びついていることを肌で感じることができ、大きな学びになりました。今後はこれらの経験を、神学のさらなる探究に活かすとともに、多様な価値観を吸収するように努め、自身の視野を広げていきたいと考えています。



園田さんは左端

学生の声 神学部で学ぶ

キリスト教伝道者コース4年 呉 一波



Q1. 神学部に入学したきっかけは？

私は中国江蘇省のインターナショナルスクールの出身で、卒業生のほとんどは海外の大学に進学します。せっかく海外の大学に進学するという貴重なチャンスを頂いたため、母国にはない学部で学びたいと思い、神学部を受験しようと決めました。神学部を受験すると決めてから日本の神学部の情報を収集し、その中で関西学院大学神学部の強みは聖書学研究であると知りました。それは私が大切にしている「聖書のみ」の信仰と一致するため、関西学院大学の神学部を専願にして受験しました。

Q2. 現在神学部で興味を持って学んでいることは？

聖書学に関する授業全てが面白いと思います。特に東よしみ先生の「新約聖書入門Ⅰ」の授業では、「信仰的読み方」と「学問的読み方」の両方を用いて聖書を読むことで、聖書は単なるクリスチャン向けの本だけでなく、一般の人にとっても魅力的な書物であると認識しました。

新約聖書学の研究には、古典語の力が不可欠です。もっと新約

聖書を深く学ぶために、私は「新約聖書ギリシャ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を全て履修しました。新約聖書の理解をより一層深めるために、独学で現代ギリシャ語も学び、検定にも合格しました。多くの言語を学ぶことで、目の前の世界が広がっていくと実感しています。皆さんも、ぜひ多くの言語を学んでみてください。

Q3. 将来の夢や目標は何ですか？

すでに新約聖書学に惹き込まれたので、より深く研究するために大学院に進学するつもりです。私にとって聖書は、単なる研究対象にとどまらず、人生において最も価値のある優れた古典です。その信念を持ちつつ、大学院修了後は牧師として働き、多くの方々に聖書の魅力を伝えられるように頑張りたいと思います。

Q4. 神学部生、神学部入学を目指している受験生に対してメッセージをお願いします。

神学部は少人数の学部であるため、学生同士の距離が近く、深い絆を築きやすいという魅力があります。その一方で、意見や解釈が食い違った際に「どう向き合うか」という課題に立ち向かうこともあります。分断と拒絶を選ぶのか、対話と和解を選ぶのか、それが問題です。キリスト教の長い歴史を振り返るならば、痛みを伴う分断が時には避けられない道であったことも事実かもしれません。しかしながら、それが常に「最善の道」であったとは言えません。

異なる意見の中に身を置くからこそ、新しい気づきと理解が生まれます。皆さんと共にこの場所で、葛藤を恐れずに「最善の道とは何か」について考えることができる機会を楽しみにしております。

ディアコニア・プログラム報告

森本 典子 専任講師



2026年1月8日、2025年度のディアコニア・プログラム発表会が開催されました。

発表会では『『開放的なディアコニア』を目指して』と『過労自殺とディアコニア的アプローチ』というテーマで2名の学生がそれぞれ2年間取り組んできた結果を報告しました。

『『開放的なディアコニア』を目指して』では、キリスト教的であるかどうかで線引きをするのではなく、既に存在する社会実践における共通項を中心に対話し協力していくことが大切だという提言がありました。また、『過労自殺とディアコニア的アプローチ』においては、ディアコニアの視点をもとに、専門家ではない人々が、日常生活の中でどのように労働現場で精神的に追い込まれている人々を支援できるのかについての具体案が提示されました。

現在は、3名の学生がプログラム修了を目指しており、また、3名がプログラムへの参加を希望しています。小人数で互いに刺激し合いながら密度の濃い学びを続けています。

追悼 — 湯木 洋一 名誉教授 —



湯木洋一先生は、1976年に関西学院大学神学部助教授として着任され、1980年に教授、1982年には大学院ゼミ指導教授となられ、2000年の退職まで実践神学を担当し、教会とは何か、宣教とは何かを厳しくも温かく教えてくださいました。先生の授業で繰り返し語られた「パイディア」は、キリスト教教育を単なる知識の伝達ではなく、人格と文化を形づくる営みとして捉える先生の学問を象徴する言葉でした。また、1990年に大嘗祭をめぐって右翼団体が関学に押し寄せた

際には、学長代理として学院の信念を守るため矢面に立たれ、その毅然たる姿勢は、キリスト教主義学校のあるべき姿として語り伝えられています。神学部キリスト教教育研究集会の設立、発展にもご尽力いただき、1990年から2007年まで喜音伝道所の代務者も勤められました。2026年2月11日にご逝去されました。

(中道 基夫 関西学院院長・神学部教授)



第60回 神学セミナー報告 加納 和寛 教授

今回のセミナーでは、最新技術、とりわけ生成AIの普及が礼拝のあり方や牧会活動に投げかける新たな問いについて考察が行われました。

プログラムの最初の対談では、キリスト新聞社社長の松谷信司氏と本学神学部の柳澤田実准教授がお話しくさしました。

続くAIレクチャーでは、AIコンシェルジュであり本学神学部同窓の脇屋国継氏が登壇し、AI技術の担い手としての視点からお話しくさしました。

午後には、柳川真太郎氏の司会のもと、小林希恵氏(日本基督教団三木教会牧師)と江見かのん氏(仁川学院中学・高等学校宗教科主任)から現場報告がなされました。

また、関西学院院長であり神学部教授の中道基夫氏と、韓国・監理教(メソジスト)神学大学准教授のソ・ヨハン氏による対談が行われました。最後は本学神学部長の岩野祐介氏の司会により、中道氏、ソ氏、本学神学部助教のペーターセン・エスベン氏によるパネルディスカッションが持たれ、教会が直面する新しい課題に神学的・実践的にどう向き合うべきかについて広く深く語り合う機会となりました。

60回を迎えた今回は対面60名、オンライン38名のご出席をいただきました。九州などからもリモート参加者が与えられて感謝です。本セミナーでの議論が今後の教会活動や日々の歩みへの一助となれば幸いです。



招待講演(対談)



パネルディスカッション



神学講演(対談)

第27回 キリスト教教育研究集会報告

2025年12月25日(木)に関西学院中学部にて、第27回キリスト教教育研究集会が行われました。家山華子氏(日本基督教団箕面教会、関西学院大学神学部非常勤講師)が「牧会における聖書の役割—関係の言葉としての聖書」を中心に」というタイトルのもと講演を行い、美濃部信氏(啓明学院中学・高等学校)が発題を行いました。

MS セミナー 2026 ご案内

「MSセミナー2026」は8月18日(火)~20日(木)に開催される予定です。神学部・神学研究科を卒業・修了し、2026年度に教会の現場で働いて5年目、10年目を迎えた方に既にご案内いたしました。万が一ご連絡が来ていない場合は下記へご連絡ください。

関西学院大学 神学部補佐室
TEL.0798-54-6207
E-mail:thhosa42@kwansei.ac.jp

<牧会講演>

岸本 光子(大阪暁明館病院伝道所チャプレン)
林 邦夫(日本基督教団隠退教師)

<神学講演>

森本 典子(関西学院大学神学部専任講師)

『神学研究』(73号)のご案内・74号執筆募集

頒布につきましては、神学研究会までお問い合わせください。

論文(査読付き)

波多野精一は信仰者と「神」との関係をいかに説明するか
— 波多野宗教哲学におけるキリスト教信仰 — … 八木 清文

論文

ニコデモ物語における ἐάν μή τις γεννηθῆ ἄνωθεν の意味
— ヨハネ福音書の ὕδωρ と πνεῦμα に関する考察 — … 本原 桂二

ローマ書9章におけるソドムと残りの者(ὑπόλειμμα)の機能 … 武久 盾

『キリスト教綱要』と『偽マカリオス大書簡』における聖書引用法の比較研究
… 土井 健司

変容する歴史と宗教なき実存

— 歴史的対立図式と弁証法的統合の試みに関する神学的考察 — … 加納 和寛

実践神学と〈伝道者養成〉の視点から読むディートリヒ・ボンヘッファー
— 牧師補養成期(1935-40)研究の課題と展望 — … 橋本 祐樹

ディアコニア研究における日本の課題 — 畑祐喜の研究を参考に — … 森本 典子

牧会者論再考

— ある牧師がうつ病を患い、回復するプロセスをめぐって — … 家山 華子

類型論的アプローチによる実践神学の構造分析

— クリстіアン・メラの理解と日本の展開を焦点として — … 高木 政臣

書評

Joseph A. Marchal, Melissa Harl Sellew, and Katy E. Valentine, eds.,
Trans Biblical: New Approaches to Interpretation and Embodiment in Scripture
(Louisville, KY: Westminster John Knox Press, 2025), xiii + 280 pp. … 薄井 良子

2027年3月発行予定の第74号『神学研究』への投稿論文を募集します。投稿対象は、査読付き論文/論文、研究ノート、書評、研究動向の4文種です。募集期間等は以下の通りです。

・執筆申込期限 2026年6月12日(金)~9月11日(金)

・論文提出期限 2027年1月7日(木) 査読付き論文掲載を希望する場合:2026年10月9日(金)

詳細については、ホームページにて随時更新しておりますので、下記リンクからご確認くださいよう願いたします。

『神学研究』第74号応募要項 https://www.kwansei.ac.jp/s_theology/teacher/research/
関西学院大学神学部内 神学研究会 TEL.0798-54-6207

■ 2025年度 大学院博士課程 前期課程修了者 論文題目並びに進路

氏名	論文題目	進路
安東 大器	ペンテコステ派の聖書理解と聖書学の対話 —第2の創造物語(創世記2:4b-3:24)への読みをめぐって—	
川口 廉央	キリスト教徒以外の人は救われるのか —カトリック教会における救済理解を中心に—	
坂本 子龍	日本人プロテスタントの教会へのコミットメントについての量的研究	日本基督教団関西学院教会
下川 泉	行動規範から内的姿勢の信仰へ —アウグスティヌスの禁欲論に関する一考察—	日ノ本学園高等学校
竹田 満	コロサイ書4章1節における主人と奴隷の関係についての考察	日本メソヂスト教会 日本メソヂストブレザレン教団総持寺キリスト教会
濱名 佳純	キリスト教における正義の一考察 —義認からモルトマンの正義理解—	

※企業等就職・その他3名

【2025年度 学位取得者】

■学 部: 学士26名(進路: 本学大学院神学研究科前期課程進学3名、企業等就職20名、公務員1名ほか) [2026年5月現在把握数]
 ※主な就職先…日本基督教団教会、日本赤十字社、警視庁、雪印メグミルク(株)、アフラック生命保険(株)、兵庫県信用農業協同組合連合会
 ■大学院: 修士6名

【2026年度 学部・大学院入学者】

■学 部: 新入生 31名(日本基督教団教会所属:3名)
 ■学 部: (3年次) 編入学生 0名(日本基督教団教会所属:0名)
 ■大学院: 博士前期課程 4名(日本基督教団教会所属:3名)
 ■大学院: 博士後期課程 0名(日本基督教団教会所属:0名)

2027年度 神学部・神学研究科入学試験ご案内

■ 2027年度 神学部入試情報

入試種別	出願期間	試験日
総合型選抜入試 (社会人、外国人留学生含む)	学部特色入試	9月 1日(火)～9月 8日(火)
		10月 24日(土)
	スポーツ選抜	9月 1日(火)～9月 8日(火)
		9月 26日(土) 10月 24日(土)
	グローバル入試	9月 1日(火)～9月 8日(火)
9月 26日(土) 10月 24日(土)		
探究評価型入試	9月 1日(火)～9月 8日(火)	10月 24日(土)
編入学(3年次)	9月16日(水)～9月25日(金)	10月 10日(土)

入試情報詳細は以下のウェブサイトから確認ください。

- ◆神学部 <https://www.kwansei.ac.jp/admissions/>
- ◆神学研究科 <https://www.kwansei.ac.jp/graduate/admissions/>

■ 2027年度 神学研究科入試情報

<博士課程前期課程>

	出願期間	試験日
一般	<第1次> 8月24日(月)～8月31日(月)	9月 4日(金)
社会人		
外国人留学生	<第2次> 2月 8日(月)～2月15日(月)	2月19日(金)

<博士課程後期課程>

	出願期間	試験日
一般	2月 8日(月)	2月19日(金)
外国人留学生	2月15日(月)	2月20日(土)

【お問い合わせ先】 関西学院大学神学部 入学センター Tel.0798-54-6200
 Tel.0798-54-6135

第43回 関学ユースキャンプ ご案内

日 時 2026年8月3日(月)～5日(水)
 場 所 関西学院千刈キャンプ 〒669-1507 兵庫県三田市香下1817-1
 主 題 「Love your neighbor, Love YOURSELF.
 —神様とあなたとわたし—」
 主題聖句 イザヤ書43章4節「わたしの目には、あなたは高価で尊い。わたしはあなたを愛している。だからわたしは人をあなたの代わりにし、国民をあなたのいのちの代わりにするのだ。」
 講 師 藤井 航(公認心理師・関西学院高等部非常勤講師)
 参加費 12,000円
 申込先 <https://forms.gle/e3A3Xd3a1oHHAeSH8>



～講師より高校生・青年の皆さんへ～
 私たちは日々色々な想いを抱きながら生きています。時には悩み、道に迷うこともある。そんな時「自分」を大切にできていますか? 僕は「人との出会い」を通して自分を大切にすることを知りました。皆さんと過ごす時間が、高価で尊い「自分を知る」きっかけとなれたら嬉しいです。





関西学院大学神学部編

『関西学院大学神学部ブックレット18:ディアコニアでつながる未来』
(キリスト新聞社、2026年2月)



2025年2月に行われた、ディアコニア・プログラム10周年を記念して行われた第59回神学セミナーの内容を収録しています。招待講演:上内鏡子氏、主題講演:森本典子氏、ディアコニア修了者報告:野上言愛氏、西脇聡子氏、大仁田空氏、ワークショップ:井上智氏、パネルディスカッション:中道基夫氏、市瀬晶子氏、上田直宏氏、橋本祐樹氏が担当されました。

小田部 進一(他共著)・富坂キリスト教センター(編)

『人間が「人間」となるためのコミュニティ:環境・共生・協働』
(いのちのこば社、2026年3月)



本書は、富坂キリスト教センターで2022年11月から約3年間にわたり行われた「環境・共生・協働のコミュニティ教会の将来」の成果をまとめたものです。宗派や制度的教会の垣根を越えて集った著者たちが、多様な現場でコミュニティ形成に取り組む事例を紹介し、環境に配慮した共生・協働の社会に求められていることについて考察しています。教会と地域が共に共生社会を形成していくヒントを与えてくれる一冊です。

土井 健司(他共著)

『福祉の世界史』 (有斐閣、2025年12月)



『福祉の世界史』(有斐閣)は地域的な偏向がなく、通史的な経糸として31章、集団・社会的な視点からまとめられた横糸として20章、そして12のコラムから成っており、この一冊で世界における「福祉」的な事象全体を網羅する内容となっています。西洋に偏らず、先史時代をも含めて全体が編まれているのは画期的で、執筆者は58名にのぼります。筆者は横糸として「キリスト教」を担当し、聖書や初期キリスト教を中心に書いて寄稿しました。

J. デイヴィース(著)・浅野 淳博(監訳)

『パウロと黙示 —黙示的パウロの研究史と展望—』
(教文館、2026年3月)



本書はパウロ神学のうち、とくに黙示的終末論に関する研究史を紹介し、この新約聖書学的な論考がいかに組織神学との対話を活性化させているか、その現状を紹介しています。欧州で研究を進めている若手の研究者が翻訳にあたり、浅野が監訳を務めました。

クリスティアーネ・ティーツ(著)・橋本 祐樹(訳)

『ディートリヒ・ボンヘッファー: 抵抗に生きた神学者』
(新教出版社、2025年11月)



本書は、ボンヘッファーの神学と実践を時代的文脈の中で統合的に描いた定評ある新しい評伝です。生涯を年代順にたどりながら、その都度形成される神学的思索と実践の関連を明らかにします。彼を単純に抵抗者や殉教者として英雄化することなく、伝道者養成、霊的生活、政治的関与等を含めてバランスよく位置づけ、受容史についても簡潔に整理しています。

■卒業生のみなさまへ

◆ホームページのリンクに関するお願い

神学部のホームページでは、主に学生や多数の本学関係者に教会活動について幅広く知ってもらうため、本学部・研究科のOB・OGの方々を牧師や伝道師として在籍する教会名や教会ホームページへのリンク先を紹介しております。
神学部 > 進路・資格 > OB・OGの在籍する教会・施設
(https://www.kwansei.ac.jp/s_theology/career/alumni/)

貴教会においてホームページを開設していらっしゃる場合は、ぜひ神学部までお電話でご連絡ください。また貴教会から神学部ホームページへのリンクも歓迎いたします。

■リンク先URL(https://www.kwansei.ac.jp/s_theology)

- 9/20 神学基礎テスト
- 9/22 学部・大学院秋学期授業開始
- 10/22 神学研究会「ヤコブ書における知恵」(東 よしみ 准教授)
- 10/21 神学部学術講演会
「『私の先祖はさすらいのアラム人でした』(申命記26章5節):
—古代イスラエルの歴史と旧約聖書文学の形成」
(ベルント・U. シッパー氏・ベルリン・フンボルト大学神学部教授、
国際旧約学会会長)
- 10/31 神学部チャペル・コンサート
- 11/1~11/2 新月祭
- 11/11 教会と神学部の集い(神学部後援会主催)
- 11/26 神学研究会「弁議を超えて —Lynn White 論争後の
人権志向的エコ・ディアコニア神学」(中道 基夫 教授)
- 12/ 1 神学部アドベント礼拝(土井 健司 教授)
- 12/10 神学部クリスマス礼拝
「すべての民に与えられる大きな喜び」(東 よしみ 准教授)
- 12/25 第27回キリスト教教育研究集会
「牧会における聖書の役割 —"関係の言葉としての聖書"を中心に」
(家山 華子 氏・日本基督教団箕面教会、
関西学院大学神学部非常勤講師)
- 1/ 8 ディアコニア・プログラム発表会
- 1/ 9 秋学期授業終了
- 1/16 阪神淡路大震災記念礼拝 於:ランバス記念礼拝堂
- 1/28 神学研究会
「幸せなデンマークの創造:デンマークと日本人の幸福探求」
(ペーターセン エスベン 助教・宣教師)
- 2/12 修士論文口頭試問
- 2/16 第60回神学セミナー「AI時代の教会」
- 2/25 神学研究会(神学研究科後期課程報告会)
「マナセの奪われた業績について」
神学研究科後期課程1年 潮田 真由
「語り手に同伴する読み—サムエル記上13章1節を例として」
神学研究科後期課程1年 吉澤 和海
- 1/13 神学生出席教会牧師との懇談会
- 3/ 6 新卒教会赴任予定者オリエンテーション
神学部後援会伝道者育成奨励金授与式
- 3/12 東日本大震災記念礼拝 於:ランバス記念礼拝堂
- 3/16 秋学期大学院学位記授与式・修了礼拝/修士(神学)6名
- 3/17 秋学期大学卒業式・卒業礼拝/学士(神学)26名
- 3/22 オープンキャンパス
模擬授業
「神の反対は塩か?—キリスト教用語の日本語訳について」、
学部紹介「神学部ってなに?!~神学部での学びに触れてみよう!」
(いずれも岩野 祐介 教授)

※所属・役職等は行事開催時のものです。

◆住所・勤務先変更ご通知のお願い

近年、神学部からの卒業生の皆様宛郵便物(神学部報・後援会だより・講演会開催案内等)が転居先不明で返送されることがあります。
ご転居の際には、ぜひ神学部事務室までご一報ください。
※ご提供いただいた個人情報第三者に開示することはいたしません。